

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-179	16-054	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Disease burden attributed to alcohol: How methodological advances in the Global Burden of Disease 2013 study have changed the estimates in Sweden.</p> <p>アルコール起因性の疾病負荷：Global Burden of Disease 2013 study の推定方法の変更によるスウェーデンでの現状評価への影響</p>		
執筆者		
Kellerborg K, Danielsson AK, Allebeck P, Coates MM, Agardh E.		
掲載誌		
Scand J Public Health. 2016 Aug;44(6):604-10. doi: 10.1177/1403494816653512.		
キーワード		PMID
疾病負荷、アルコール、推定方法		27282643
要 旨		
背景：		
<p>世界的な疾病負荷(GBD)に関する研究は、継続的なデータ更新、推定方法の改訂がなされ利用されている。本研究では、2013年に改訂された、アルコールに起因した疾病負荷に関する新たな推定方法と従来の方法を比較整理し、スウェーデンにおける2010年のアルコールによる疾病負荷の状況を、新旧の方法で比較評価した。</p>		
方法：		
<p>GBD 研究では、アルコールによる疾病負荷への影響について、障害を調整した生存年数(DALY)を指標としており、飲酒量をゼロにすることによってどの程度の疾病負荷を回避できるかを理論的に推定することによって評価している。新しい推定方法の要点は、飲酒量の評価方法の変更、軽度のアルコール依存症の設定、最も重篤な障害への割り付け、多量飲酒がある場合の飲酒による心血管系疾患の予防効果を除いたことなどが挙げられ、対象となる死因および疾病は 291 から 306 へ、続発症は 1,169 から 2,337 へ、危険因子は 67 から 79 へ増加している。</p>		
結果：		
<p>2010年の飲酒による疾病負荷は、従来推定方法と比較して、新たな方法により13.6%増加した。この増加の主な要因は、新方法により女性の飲酒量が多く見積もられ(旧：6L/day、新：7.1L/day)、アルコール起因性の心血管系疾患が増加したとにある。対照的に、男性での疾病負荷は減少した。その要因として、新方法により男性の飲酒量が少なく見積もられ(旧：14L/day、新：12.1L/day)、アルコール使用障害が減少したことが考えられた。</p>		
結論：		
<p>新たな GBD の推定方法を用いた場合、飲酒による疾病負荷は女性で増加し、男性では減少した。</p>		